

歴代会長

初代	藤井 二夫	昭和24年～昭和25年	六代	末次 武則	昭和56年～昭和62年
二代	杉浦 仁	昭和26年～昭和29年	七代	佐伯 美弥吉	昭和63年～平成14年
三代	宮本 盛助	昭和30年～昭和46年	八代	古木 謙一郎	平成15年～平成20年
四代	山口 清造	昭和47年～昭和53年	九代	藤井 正剛	平成21年～平成25年
五代	秋元 弘造	昭和54年～昭和55年	十代	川本 豊	平成26年～現在

東郷町会について

昭和7年、行政区画の変更により、東京都中野区東郷町となった。元は中野・本郷の東に位置していたことから東郷と名付けられた。東に山手通り、南に神田川が西から東に流れ、川沿いは平地で北は坂を登ると台地となり、昭和初期にはゆとりのある山の手の住宅地として発展した。近時は、宅地の細分化が進み、世代替わりで新築の住宅が目立ち、低層のアパートやマンションも数多くある。交通の便が良く、病院や医療機関も多いことから住みやすい町ともいわれている。しかし、他方で高齢者の独り住まいの方が多く子供は少なく、少子高齢化が進む典型的な町でもある。「安心して住み続けられる町」「近隣、相互扶助の町」を目指して全力で取り組んでいるところです。

町会組織と地域活動について

昭和20年5月の山の手大空襲により一帯は焼野原となり東郷も廃墟の町となった。終戦後も日常生活は深刻な食糧不足と物資の窮乏により貧しく苦しい時期が続いた。こうした中で占領政策の一環として町会は解散を命じられた。しかし町民はお互いに助け合わなくては復旧も復興もむずかしいと有志が集まり昭和24年「東郷振興会」を立ち上げた。それ以降、先人の意思を後継者が受けつぎ町会活動を展開した。平成15年、歴史ある「東郷振興会」を「東郷町会」に名称変更。平成19年、町会結成60年を記念して東京工芸大学において祝典を挙行、記念誌を発行。平成22年、地縁団体法人として認可を得、法人化を果たした。現在町会は町会長1名、副会長4名、各部会長14名、監査役2名で役員会を構成し、下部組織として町会を8地区に分けそれぞれに地区長として地域を担当、役員会は毎月1回を定例会とし必要に応じて臨時総会や幹部会を招集して意見を求め理解を深め合っている。定例の行事は数多くあるが他町会と同様に各部会が中心になって対応している。町会独自の催しとしては夏の夕刻「納涼祭」があり、広く地域の人々との交流を深め親睦をはかることを目的に毎年200人以上が集まり楽しんでいる。

町会内のみどころ

山手通り沿いに創建600年の曹洞宗成願寺があり、中野長者と呼ばれた伝説の鈴木九郎の史跡が往時を偲ばせます。神田川沿いには霊妙寺、八津御嶽神社が並び建ち中央部には創立90年余りの東京工芸大学（芸術学部）が全面リニューアルされた校舎に将来の夢を託した若人が集い、講演会や展示会がたびたび開催されている。その北側には暫定公園として開放されていた2100坪の空地が正式に公園化が決定し平成30年の開園が待たれるところです。



東郷公園での餅つき大会風景